

『蛍光体ハンドブック（絶版）』の電子書籍としての出版企画について

蛍光体の研究・応用技術に取り組まれている研究者・技術者は、「蛍光体同学会体ハンドブック」をよく、ご存知と思います。

「蛍光体ハンドブック日本語版」は、昭和59年（1984年）4月に蛍光体同学会が第200回講演会を迎えたことを記念して企画され、蛍光体およびその応用に関する研究・技術を集大成して、ハンドブックとして刊行されました。本書は蛍光体同学会の有力メンバーが企画・編集にあたり、執筆者もほぼ全員が同学会メンバーであり、その意味で本書は蛍光体同学会が文字通り総力を挙げて刊行に取り組んだものです。

昭和16年（1941年）に蛍光体同学会が発足して以来、同学会における蛍光体の研究は約一世紀に及ぶ長い歴史をもち、各種のディスプレイ、ランプ、発光素子に使用される無機粉末から薄膜蛍光体、有機発光体へと研究対象が拡大するのに伴い、より多くの応用分野において社会・産業へ貢献してまいりました。蛍光体ハンドブックの内容は以下の通りです。

- 1 編 序説：蛍光体の研究・技術の発展の歴史
- 2 編 蛍光体の基礎：ルミネッセンスの基礎、発光機構、光物性
- 3 編 実用蛍光体：蛍光体の合成法と応用技術、製造方法と特性、ランプ、ブラウン管、X線・放射線、蛍光表示管、EL、プラズマディスプレイ、有機蛍光体など。
- 4 編 蛍光体に関する測定
- 5 編 関連重要事項

以上のように、本書は、蛍光体の基礎から応用までと、主要な蛍光体についての製法と特性を解説・説明した蛍光体研究者にとっての羅針盤となるべき知識の宝庫です。

その「はしがき」には、「来るべき情報化社会において蛍光体が演ずる役割は益々高くなると予想される。蛍光体の研究と技術を支え、日本が蛍光体の研究・技術で世界のトップの地位を維持するために、本書が大いに貢献することを期待している。昭和62年12月 蛍光体ハンドブック 編集委員長 塩谷繁雄」と記載されています。なお、その販売実績は以下の通りです。

昭和62年（1987年）12月25日 第1版第1刷発行 1500部

平成3年（1991年）6月20日 第1版第2刷発行 300部

平成21年（2009年）1月30日 復刻版発行 100部

全て完売となっております。

当蛍光体同学会へ、蛍光体研究の若手技術者や学生諸子から、この「蛍光体ハンドブック」を何とか入手できないかとの問い合わせがたびたびあり、このままでは、蛍光体ハンドブックの出版の意義が薄れる、折角の先輩研究者の業績や成果が知られないままになる、無用な研究開発がなされるなど、多くの問題を生じることを熟慮し、なんとか復刻版を再度実現できないかと蛍光体同学会幹事会も模索しておりました。

今般、オーム社殿から「電子版蛍光体ハンドブック」が実現できるということを知り、蛍光体同学会第400回講演会記念として、この電子版の出版を企画することを考えております。本企画に何かご懸念事項がございましたら、2024年2月末日までに蛍光体同学会HPのお問合せよりお知らせください。なお、著者の方々へ電子版出版のご連絡をしてご承諾を得ることが困難な状況下であり、また、オーム社殿のご助言もあり、本電子書籍の印税（著作物利用料）は、蛍光体同学会がオーム社殿より受け取り、今後の学会活動に有効に活用することを予定しております。（もし、ご連絡可能な方がおられましたら、必要に応じて、著者またはそのご家族様へどうかよろしくお伝え下さい。）

2023年12月 蛍光体同学会 幹事会